遺言録

昭和十五年
三月
春城手録

特別
14
1919
724

特
14
1919
~~199~~
724

金言抄

一 英雄の寵愛は死と獄となり

一 真の英雄なるは自ら史実推
知ることを知らざるなり ナポレオン

一 錠をおろしも固く守れ されどそれ誰れ
か其守る者等を守るべきぞ ジュベナリス

一 錆て腐るよりは磨て耗らす花かす　カンベルラント

一 大膳の中なる才力ある人なれども只焼物より外事見すに成らんゴエテ

一 今は力ある神なり　同上

一 思ひ知へらく者は大人なり　エマルソン

一 愚者の心は口中なり智者の口は心中

に在り

一 信人の喉は開きたる墓所なり

一 復讐は死より先つ志愛は死を慰むる名誉は死を希ふ悲哀は死に奔る怨憎は死に先たつベーコン

一 人まゲーテを聞て曰く秘中の最も秘なるものは自己を尊て公開の秘なり

一人ありて其口に於て然りと云へば目に於て否と云へり其口を信ぜずして其目を信ずべし　エマルソン

一衆の歴史を書き善へば悉然り　ギヨニー

一諸事を物語るもの自ら物語るものなり　カーライル

一知らざるは我の本なり　カーライル

一忍ぶべき所新あり勢を強んで忍ぶべし

忍と為すべ足らず畏るべきの勢なるべし

忍ぶべきの事之を真とす　神瑞

一富豪の未亡人は一眠を以て泣き一眠を以て笑ふ

一貧困を笑ふ口よりも貧きいろゝ金冠を戴く頸よりも花きいろゝ七宝荘厳より甚だしい所より眠り難きいろ

一金を借りに行くものあり憂となり行く

ちり　芥川誌

一主人の目と足とは富家の最良の肥料也　同上

一花柳のたもとは笠を脱く

一聞き家もは醫者来る

一ホヽ義公曰く仁義過きて弱に陥り義

に過きて酒に陥る智過きて虚偽に陥る

一酒の拳を以て刺激を撃ち最も痛

きものは酒の手なり　ブローメス

一驥は喝まんば即ち走る其次は鞭影を

見て走る駑は即ち鞭撻して漸進の微

まんば走る

一負けて退く人を弱と思ふなと哲

の力の強き故なり

一自責のおのれ人を勝つの術なく自強の
おのれ人に上なる術なし

一柔く撓の体知つて多くを掴む

一英雄と勝つ心を知るや貴人の強なる
人の作法を見よ

一多言なるは智なる故なり愚なるは
ちゑん似なり性急なるは無し似なり懶
惰なるは寛なる故なり侈なるは貴似
なり察せざる可からず 旭義

一聯合四の基礎は義理の数理なり善
の義理は二三か四なるを聯合四の基礎

二三は四つあるも或は三つ或は三以下
なることもあり是は一人生の数多所亦
世界大戦之見る所也

一生涯為き何物をも持ち合せざる人間
こそ最も幸福なる人間なるべし

一他人の多くを許し自分のみを
許す勿れ

一人から〳〵よく言はれないと非難する自分の
いゝ所を並べ立てる事だパスカル

一義務術の優位と科学の優位は万人の利益へ
の私慾なきを奉仕する ジョン・ラスキン

一左手をして右手の為す事をしらざらし
めよ マタイ伝

一現世界に行はるゝ奢侈の十分の一は他人

の評判を気にするな　シェークスピヤ

一　利己心は傲慢の母である傲慢は
実に抑へ切れない満腹の利己心である　トルストイ

一　多くの人間を軍隊の人間にしたく
しかも面白く喧嘩する　セネカ

一　思想上の病気は肉体上の病気
よりも殺人的である　ベーコン

さうシセロ

一　自己の理性を信頼する勇気を持て
実は教化の秘訣である　カント

一　あらゆる物理は満足まで張ま
るかあるゆる哲学は満足まで

極大なる アミニン

一 あらゆる新元素の発見せられたるものの如きもあり新たなる思想の表徴である ラムニン

一 急けて新興の感覚の集ふ場所である ゲーテ

一 口数少き温厚なる紳士の高尚の装飾である

一 良心の要求する抵抗難の美は神の要求に従つて二度び美しい服装する方がよいのである

一 人が知識に富むほど常に

自分を呼ぶ外の名称がまちまち
少なくやうて来る
一他人に必要とされても自分の
他人を必要とする人さうの人ハ
幸福である

一行為が複雑な理窟をつけて説明され
ぬ為に悪しき行為であると信ずる
良心の決定ハ直截で簡単なの
である トルストイ

一利己心に基き為す動機ある高尚
なる陰謀があるとしても何ら悪いことハ

世の変遷が到るところ極まってすべて純粋
公共の幸福のためにはたらくことは
とても思はれることだ　トマス、モーア

一面の事業は傲慢と残忍と自惚
の強い無智と恥辱を表わす
ビュイシエ

一皆人の奉ずる社に対する心の用に
祈りをもちて
一無垢と真実と完全の可能性を持つ
ものが絶えず生まれて来ることは世
界はどんなに恐るべきことであったら
ラスキン

一 極楽をねがうものは一切の世間を捨て
大きなる不幸に導く悪の誘惑の一
つに「みんなかさうだ」といふ言葉で言
い現はされる誘惑がある
一 争ひを止めよ―争ひは代償にとつて
最もふ利益の條件である言葉
は釘のごときものである叩けば叩くほど
とがへ出てくる（エヴェナリス）
一 勇敢な人は自分の事に前後を
考へる（シルレル）
一 最初の釘をかけ損ねたる者は
後の釘までかけ損ねる外に無い（ゲーテ）

一 經驗は最良の教師なり 但し接業料が高價なることを憾むべしゲン

一 喜びは友人に頒ちて之を倍し悲みは友人に頒ちて之を半減すべしユン

一 天才とは九十九パーセントの汗と一パーセントの霊感ひらめきエジソン

一 函嶺裡に完成くの道を辿りてある時五〇〇〇丁度四錐形のテウペンから其の座を北に向つて下るのと同じである

へり下れば下るほど、吾々の霊生活の角はまる〳〵廣大になるのである

一 愛の行く所法律剣なり蒲團なり

但々ろう

一 睡者の徒に思ひたまふる

一 底いろき淵やいさらく山川の浅き瀬ま

こそあれ波へなて

一 わけのぼる林の路を多はなと同じ高

山頂の月をこそ見れ

一 四方あらと思ふ心のあれ搦ふはに

嵐の吹かぬまのわは

一 和風穏波まい神ふんを守れ狂

風怒涛ふの我みつ〳〵我を守ら

一 世に異しくふる寿望

こゝろ安かるべし（オブセン）

一 言葉は剣なり 鍛えざれば錆るべし

鍛くるこゝろ 同上

一 己れの弱い者を他人の幸福と

奪ふ力は強い 同上

一 自分の自由意思は法律以上に強くこれを制する 仝上

法律以上に強くこゝろ

一 軽かる石に苔生えず

一 おちつく暇の鉛を吹く

一 上見れば及ばぬことの多かりき心立着

てくらべこゝろ

一 下見れば我れまさりし者もなし心立

とりたんよ天の高きを

一我とうぬぼれ心捨てゝ見よ大千世界
さいらもの

一我という心の鬼が暴りうは何とて福
はゆる入るべき

一事足んは足れば何事も事足ず

延べ事なる身こそあれ

一一代の守本尊たつめあるは我人とも
飯と汁なり

一いつとても見ぬ所なき神恵
天に通ふという所なくなり

一一口に取て噛む間に見へず

三味線かりる鬼をおそろし

一皆かくす皮は淮也迷ひけり

美人をいふも皮のうちさうろう

一人多き人の中も人をうき人を

うる人人とうたう人

一自己及び他人の為に高も大切で

必要の人間の仕事一番要人

か其結果を見ることの出来ぬ

諸の仕事ひとつ（ラスキン）

一人間の社の為の凡て結果をうる

現在時勢から遠く離れてみれば
ちっぽけな人間に過ぎない時代に
尊敬さるべき行為なり（ラスキン）
一商者の無意識の人々あらゆる長き
めぐりの後をもって当来の長恵
に自己を捨てしめよ彼は之所に
商者なることを忘れ仕舞ふまで
らう
一商者の部屋に偉い三人の人物
の額を十畳の部屋に掛けた
ものを志ある者を泊らせる暖

をとゝろをとやることが出来るのもがし
れるに換百姓のところをを九人こ
間の墓墓きかゑん丈人の人間が
つまるとゝ、一かも彼等を素人の旅
の濡泊者を迎へ入れるのだ

一天地に於ける三千世界宏大な
ことの出来るのいろいろ解んをまる
ことの出来るのいろいろある

一生命のうの宝の偶像ようを番
犬のかいい

一吾々の弱人とすべての支出い他人に

真似人が為めとなるもの（エマルソン）

一 私は百姓を養する役著は曲がれ
判断をする程度の人間にも
つてあるらいからとある（モンテーニュ）

一 青年時代は悪人

共は自分達の職はいい行為は宗
教と道徳と祖国愛とにもなる
るのだとこの偽善をかぶせようと努
力して来たのである（ハイネ）

一 吾人の生活が肉体の分野から精神
の分野へ移動されなければならぬ

ます死か恐ろしくてくるしくてくるしくて
完全に精神生活を修養する人
にとつては此の恐怖は無い得ない
のだ（てんぷら、アラしりアス）

一忍耐する自分を制御せんとするは
他人がかしこく怒つてゐる時にこれを

静かに観察するのも善いです

（七月廿九日）

一人々の賛成を思ひ煩ふ程愚
何事でも法心に得ることあるべき人々
の評價は無駄多く殆んど「私は
美き人々の賛成を求めてゐる」と云
ふ言葉であるべき人々

と呼人と為るのハ河の藻屑なる者
を是認することの河に自てゐる人
人びハるいか パスカル

一名誉の死は墓石で咲く

一美人は容顔い嫁産む

一精出すは活潑もすぐ疲れます

一字引業は儒者の書棚なる一日
も無ることも但し時々茅臭
きに困ります 南部

一狐の一族は終に皆毛皮屋の
店頭に并ぶ

一人生命を探し求めて今日併せこゝに
若しも彼等かいまの為めに自分生命の
生涯凡ての物をはつきり尽くしこゝに
出来たるは彼等は現在命乃
獲得に第一番に行ひて居る努力
を命よりの脱却に使ふあらう
一渇して死ぬは一人飲んで死ぬは千人
一表面は徳の為　慚愧は衆善の
衣服
一海中に投ずる　林中に溺死し
一鬼の如くに石の底に沈む

一無事に次でを二度事

一羅甸語を知らない内は馬鹿である

一鏡に死い程家の踏くらる

一二人の敵も多きに過ぎる人の友も

少きに過く

一千畳萬畳只一畳、千石萬石

一杯飯

一仏曰く心のみとハるとも心をのみと

する莫れ

一武士たるか思ひをめかいるらん頼

たましきハ心ろくのみ

一心こそ心まよわす心なれ
心こころ許すな

一名香は偉勲の香氣なり ソクラテス

一曇りなき良心好き枕なり

一天國は垣間見るだに地上の人なれ
許さんず さんと幸福の家庭は其の
天國の入口なるべし

一苦しき実千年の歴史を書かんより
かあらん偽らん法衣を着ん偽め
れが修せ三昧とうそつく田く生
と苦と滅

一人と交はるの危険を言葉をかけるなる時より始まる

一直言を許す人は強い人である

一婦人はとても美しい時に武器を持て玩具なり

一女のまゝ未だ鋼鉄の面の如く潤ふ程なるも而も優値なり

一アナトール、フランス曰く自然は飽くまで春を人間に與へて花を咲かせ実を結ばせる以後の生は春を

ちりも送らぬ様のうつくしき青葉は人生
の高峯極盛とも高峯を来るべき
ハ衰のうつる恰も露か如き幼年の蘭の
花を経て はつかを蝴蝶の美しい時
代に入るやうにあらねばならぬ

えか寿命の高峯の高終の寿命
えから死といふよりは寿命の
だ

一能改過則天地不怒能安分
則鬼神無権

一休然我ふ如人ふ如我者甚衆休

誇我能勝人、勝如我者実多

一口不含米粒、体ふ掛寸絲、来時

如此而已、夜臥止八尺、日食止一

升、身外何所用焉

一人雖多愚、責人則明、以責人之

責己則寡過、人雖聰明、恕己

則昏、以恕己之心、恕人則全交

一雖色々弩、易過、而思程之戈

難防

一寡かいと稲ハうつゆく人の身分を

くらる程のあること

一外ならぬ盗人を得て恨みあり
りの如き内の盗人

一恥を知る恥を知らざれば恥をかく
恥ゝ恥きこそ恥ゝあるべし

一富を財宝とする人の心は乱れ
怨ゝべき泥濘のすゝあるべし

一諸君は此世へやつて来たゝ
只は無きもやつて来たかを思ひ
知らるべし 法人の知るべき法人の
現在の姿に於ける時分の「自己」
とゝやつて来たと云ふ事実だけである
が免角 法人此世へやつて来たゝ

から歩いて、歩き疲れて、人生の半ばを過
ぎいて来た、と突然、表に立って居るような
深刻なものを、国と個所に考える附い
て、生活が動くことを、先きを近づけること
も欲しくなる、行手にあるものを見る
ことが出来ないかを考える併しそうした

進むにつれて、彼の歩いた道、急いで歩いた道を
一と突然、彼の足が休むことなく行きつづけた
来たことの事の完成さんるが、彼の情
しくるつれの死、肉体の死とともに彼の生
豆焼道に大きな変化と来すことを彼の
まの恐ろしく試せられの死、心併断る試

化は彼の生き出れ時から彼の為
に起つれの死、そして其の結果彼の取
つて何一つ悪い事が起こらなかつたのみ
なら、安心で満足で彼が死ん離れ
ばいいと思ってみるやうな、さうなる
ばいいことが起つたのである　トルストイ

昭和十五年三月下澣

春城居士

東京はり灸 第正價